

# 沖縄音楽芸能年表

※青い箇所は後半のページに説明があります。

年代	琉球王国時代						沖縄県時代(戦前沖縄)			アメリカ統治時代				沖縄県時代(戦後沖縄)									
	1400	1500	1600	1700	1800	1900	1910	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020							
主な出来事	1392 明(中国)から久米村に技術者三十六姓移住	1429 琉球王国成立 1458 護佐丸・阿麻和利の乱			1609 薩摩による侵攻	1634 江戸幕府への琉球使者派遣始まる 1666 羽地朝秀撰歌	1721 清で「中山伝信録」刊行、琉球事情伝える	1728 蔡温、民衆支配制度/程順則、「六諭行儀」	1800 1808 1838 御冠船で清の使者来琉	1853 ベリー来航、翌年琉米条約締結 1866 御冠船 1875 中国への冊封朝貢の差止め	1872 琉球藩設置	1879 廃藩置県、沖縄県設置		1937 日中戦争 1941 アジア太平洋戦争 1945 沖縄戦	1952 琉球政府創設	1965 ベトナム戦争開始	1972 沖縄が日本復帰 1975 ベトナム戦争終結/沖縄国際海洋博覧会	1990 第1回世界のウチナンチュ大会 1992 首里城復元	2000 九州・沖縄サミット/琉球王国のグスク等世界遺産登録 2003 ぬいレール発進			2019 首里城火災	2022 沖縄復帰50周年
組踊 歌劇			1579 久米村で明の演劇		1667 琉球王国で大和芸能が奨励	1719 玉城朝薫の組踊「二童敵討」執心鐘入初演												2006 宮城能風人間国宝に認定	2010 組踊 ユネスコ無形文化遺産登録	2017 比嘉聡人間国宝に認定			
沖縄芝居									1882 芝居小屋ができる 1899 仲毛の芝居小屋で番音器が公開	1905 渡嘉敷守良が球陽座を結成	1914 伊良波尹吉「奥山の牡丹」上演												
舞踊		1534 明の使者に兼童子が歌舞披露(御冠船踊り)		1592 島津氏朝鮮出兵祈禱の二才踊りを奉納	1606 兼童子20人斉唱して群舞、笠踊	1705 玉城朝薫の仕舞 1719 御冠船で羽踊り				雑踊りの誕生と村踊りの成立	1900 八重山舞踊 勤王流創始者が秘伝書を渡す											2021 宮城幸子、志田房子人間国宝に認定	
歌三線 箏 楽器	明から琉球に三線伝来	路地楽の始まり	琉球の三線が大阪・堺に伝わる	1575 薩摩で琉球人が路地楽や三線を演奏	1612 三線製作管理の貝指奉行設置、士族に三線普及	1672 港水流三線の祖・港水親方踊り奉行江戸で路地楽・御座楽	1702 薩摩から箏が伝わる	1800 三線名人・知念緒高が御冠船で演奏 歌三線と箏合奏	1845 安富祖流歌三線の祖・安富祖正元「歌道要法」 1866 野村安枝最後の御冠船で歌師匠 1869 野村流(御拜籠工四)		1935 伊佐川世瑞世礼国男「声楽譜附工四」							2005 城間徳太郎人間国宝に認定	2011 西江喜春人間国宝に認定	2019 中村一雄人間国宝に認定	2023 大湾清人間国宝に認定		
歌謡 民謡		1531 歌謡集「おもろさうし」編纂	1603 袋中上人来琉「念仏」を広める					1843 八重山の歌を首里の踊りに入れる	1884 「八重山歌工四」 1885 「八重山歌集」		1920 新民謡ブーム 1934 「新安里屋ユンタ」 普久原朝嘉「移民小唄」		1950年代 伊江島で米軍用地買上げへの「陳情口説」	1955 宮古民謡工四									
民俗芸能						1729 白太鼓が流行「球陽」(1743-1745)	1750 盆の歌三線(エイサー)が禁止			1894 宮古島の「瀧水のクイチャー」が作られる			1956 全島エイサーコンクール開催	1966 久高島イザイホー映像化	1977 沖縄全島エイサーまつり開催					2005 ロンドン大学でエイサー夏期講習			
バンド・ポップス													1947 南の星楽劇団結成	1970 ロックバンド・紫結成		1980年代 民謡、新民謡、ポップスすべてを「島唄」と呼称	1990 BEGINデビュー THE BOOM「島唄」リリース	1998 MONSOLOO「GO ON AS YOU ARE」リリース	2003 ORANGE RANGEデビュー	2014 Rude-a 全国高校生ラップ選手権準優勝	2017 唾奇 熱いラッパーと高評	2020 Awich メジャーデビュー	
メディア														1954 琉球放送開局、沖縄タイムス(新人芸能祭) 1959 沖縄テレビ開局	1960 ラジオ沖縄開局 1966 琉球新報「琉球古典芸能コンクール・琉球古典芸能祭」	1984 極東放送がFM沖縄に変更	1995 琉球朝日放送開局						
施設 学校								1895 教育雑誌「琉球教育」刊行			1907 宮良長包、八重山島高等小学校開校 1912 山内盛彬、師範学校卒業	1930~45 宮良長包ら、郷土教育実践		1976 南風原高校開校	1986 沖縄県立芸術大学・開邦高校開校	1990 沖縄県立芸術大学音楽学部開設	1994 沖縄初音楽専用シュガーホール開館	2003 がらまんホール 2004 国立劇場おきなわ 2007 てだこホール開館				2021 なはーと開館	

参考文献

『書き込み教科書 高等学校 琉球・沖縄の歴史と文化』沖縄歴史研究会編 編集工房東洋企画/『近代沖縄の洋楽受容—伝統・創作・アイデンティティー—』三島わかな 森話社/『沖縄学術研究双書⑤琉球音楽を考える—歴史と理論と歌と三線—』金城厚 榕樹書林/『新訂増補 沖縄芸能史話』矢野輝雄 榕樹社/『焦土に咲いた花 戦争と沖縄芸能』琉球新報社/『オキナワン・ミュージック・ガイド フォー・ビギナース』磯田健一郎・黒川修司 東亜音楽社/『エイサー360°—歴史と現在—』沖縄市企画部平和文化振興課 沖縄全島エイサーまつり実行委員会

### 神への祈りと 祖先供養 民俗芸能

生命の安全や五穀豊穡の祈願、祖先崇拝から、臼太鼓、獅子舞、念仏芸能、エイサー、クイチャーなどの民俗芸能が生まれました。民俗芸能は、地域の年中行事や祭りをはじめ、国立劇場おきなわ等で舞台公演されています。



那覇市歴史博物館 提供



那覇市歴史博物館 提供

### 収容所の大衆芸能

1945年の終戦後、収容所で「ヌチヌグスー ジサビラ(命のお祝いをしましょう)」と呼びかけ、照屋林助と家々を回ったのは、音楽漫談の小那覇舞天。役者たちは、米軍の食糧袋で作った紅型風衣装を着て踊り、人々はカンカラ三線で「屋嘉節」をうたいました。



那覇市歴史博物館 提供

### 基地で始まった戦後のバンド

1947年12月、沖縄で戦後最初にプロの洋楽団・南の星楽劇団が結成され、西洋クラシック、アメリカの軽音楽、日本の流行歌などを演奏しました。デュークドーシー、グラマンシックス、タイガーなどのバンドが、米軍キャンプで活躍しました。

#### 参考文献

『沖縄音楽入門』金城厚 音楽之友社/『オキナワン・ミュージック・ガイド フォー・ビギナーズ』磯田健一郎+黒川修司 東亜音楽社/  
沖縄県ホームページ 沖縄こどもランド(WEB)/Educational Travel Okinawa 沖縄 修学旅行 情報サイト(WEB)/  
文化庁広報誌ぶんかる(WEB)/国立劇場おきなわ(WEB)/沖縄全島エイサーまつり実行委員会オフィシャルサイト(WEB)/  
西原町ホームページ(WEB)/沖縄音楽の歴史(WEB)/沖縄LOVEweb(WEB)/記憶と記録(WEB)

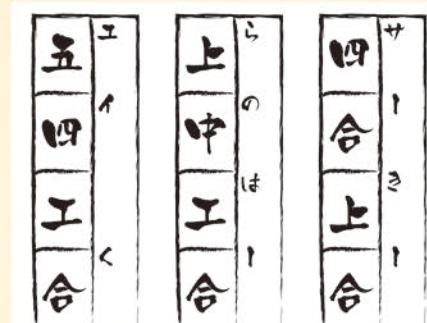
### 沖縄の歌と三線

沖縄の音楽の中心は歌で、「ド・ミ・ファ・ソ・シ」という琉球音階がよく用いられます。

三線は、中国から伝わった楽器。胴にニシキヘビの皮を張り、牛の角などのパチ(爪)を人差し指にはめて演奏します。



那覇市歴史博物館 提供



### 三線の楽譜工工四

工工四は、三線の弦を押さえるポジション(勘所)を「合、乙、老、四…」など漢字で表し、縦書きのマス目に入れた文字譜です。18世紀の『屋嘉比工工四』には、117曲が収録されています。

### おもてなしの心 宮廷芸能

琉球王国時代に中国からの使者をおもてなしする時、琉球舞踊や組踊が披露されました。組踊とは、せりふ・音楽・踊りからなる歌舞劇のこと。1719年尚敬王の冊封儀礼で、玉城朝薫が作った「二童敵討」と「執心鐘入」が初めて演じられました。



那覇市歴史博物館 提供

#### 参考文献

『沖縄学術研究双書⑤琉球の音楽を考える—歴史と理論と歌と三線—』金城厚 榕樹書林/  
『オキナワン・ミュージック・ガイド フォー・ビギナーズ』磯田健一郎+黒川修司 東亜音楽社/  
『焦土に咲いた花—戦争と沖縄芸能』琉球新報社編著/沖縄県ウェブサイト/  
文化庁広報誌ぶんかる(WEB)/国立劇場おきなわ(WEB)/『みんなの文化財図鑑』(有形文化財編)(WEB)



### 全国区のアイドルたち

沖縄本土復帰後、アメリカ化されエキゾチックな沖縄のイメージが注目され、県出身のアイドルが誕生。1971年南沙織が「17歳」でデビュー。兄弟5人のグループ・フィンガー5は、1973年「個人授業」でブレイクし、「恋の6700」「学園天国」で大ヒット。

### 沖縄のフォークブーム

沖縄本土復帰直前の1971年から約4年間、「沖縄フォーク村」は、県内各地でライブやフォークキャンプなどを開催。1972年発売の同オムニバスアルバムから、佐渡山豊「ドゥーチュイムニィ」がヒット。まよなかしんやは、平和、人権、環境、共生をテーマにコンサートを精力的に行っています。



### 新たなロック&沖縄ポップス

1980年ハートビーツが結成され、1982年にメジャーデビュー。紫のメンバーだった城間兄弟によるアイランドの「Stay with me」がヒット。

知名定男の民謡とレゲエを融合した「バイバイ沖縄」や、喜納昌吉の「ハイサイおじさん」「花～すべての人の心に花を～」、りんけんバンド「ありがとう」など、「沖縄ポップス」が登場。



参考文献  
『オキナワン・ミュージック・ガイド フォー・ビギナーズ』磯田健一郎+黒川修司 東亜音楽社/  
『沖縄音楽ディスクガイド』TOKYO FM 出版/MASAO Official Web Site (WEB)/見オフィシャルブログ (WEB)/  
沖縄イベント情報誌栞 (WEB)/琉球新報 (WEB)/沖縄音楽の歴史 (WEB)



### 代表的な民謡

「安里屋ユンタ」は、竹富島の美女・クヤマが役人の求婚を断ったという歌。標準語の三線伴奏付「新安里屋ユンタ」が現在親しまれています。「ていんさぐぬ花」は、沖縄の教訓歌。ハウセンカの花は爪先を染める、親の教えは心に染みると、親への忠孝などの重要さを説きます。

♪さあ～  
ういっいっいっ♪

### 米兵を熱狂させた コザのロック

1970年代、ベトナム戦争出陣前の米兵が、コザのライブハウスに集まりました。紫は、ハードロック・バンドの頂点に。コンディショングリーン・ボーカルのかつちゃんは、激しいパフォーマンスで米兵を驚愕。メデューサのマリーは、オキナワン・ロックの女王とも。



那覇市歴史博物館 提供



### ジャズのレジェンドたち

米軍基地内のクラブで、1955年歌手の与世山澄子が16歳で、1962年ピアニストの屋良文雄がデビュー。その後、与世山澄子は那覇のミュージックラウンジ「インタビュー」を拠点に、屋良文雄は1979年オープンの「Jazz live in 寓話」で2010年まで、それぞれ活動。

参考文献  
『オキナワン・ミュージック・ガイド フォー・ビギナーズ』磯田健一郎+黒川修司 東亜音楽社/沖縄音楽の歴史 (WEB)/  
ryuQ特集ページ (WEB)/IMPERIAL RECORDS (WEB)/fun okinawa～ほーむぶらざ～ (WEB)